

# 中外炉工業課題と展望

尾崎彰社長に聞く

鉄鋼・非鉄金属プラントや熱処理炉などを手掛ける工業炉メーカー、中外炉工業（本社・大阪市）は、環境に配慮した技術・設備の研究開発を推進している。コロナ禍における足元の状況や、新技術・設備を開発する同社の取り組みなどについて尾崎彰社長に話を聞いた。（綾部 翔悟）

——前3月期は黒字 果により利益面も減益と（経常利益5億円、純 になった）

利益3億円）を確保し 「数字的には厳しい年だ。コロナ禍の中、事 だったが、コロナ禍で受 業環境の変化とは。 注減・営業活動の制限な

「コロナ禍当初、ユー ど普通では経験できない ザーの設備投資意欲およ よつなことが起き、従業 びメンテナンスの抑制な 員たちが危機意識を持ち どもあり、国内鉄鋼向け 始めた。この危機を乗り 省エネ型加熱炉などを納 越えるために新分野へ 入したが、期初受注が少 挑戦しようという意識 なく減収となった。経費 が芽生えたことは良かった 削減を徹底したが減収効 た」



## 環境に配慮した工業炉製造

### トレンド先取りした研究開発を

その中でもここ数年、中 を行っている。製鉄所の モニア混焼火力発電技術 国では精密ステンレス鋼 集約に伴い、当社設備の 研究開発・実証実験」に ストリップの連続光輝焼 受注も一定量見込まれ 採択され、産学官連携で 鈍炉など素材熱処理設備 る。また高級鋼の生産に 共同開発を進めている。 を相次ぎ受注している。 注力されており、当社の そのほかにも3件の熱処 プラントの受注も今後は 理関連の共同研究などを 上したことで、ステンレ 加速するだろう。製鋼メ 行っている」

「今後、国内ユーザー 環境に配慮した設備を 製造していく。情報・通 伸びることはないだろう 信分野はこれから本格化 する5G時代に、開発型 する。また自動車業界で進 んでいるEV化は、当社 エンジニアリング企業と 主要ユーザーである鉄鋼 して高度・高機能化する 業界や自動車部品業界に 情報社会のニーズに対応 多大な影響を与えている ことになるだろう。その中 危機感をもって新しいこ 必要がある」

「素材関連で全固体的な テーマに、独自技術を開 発することで、多様化す どの次世代電池製造用の設 備を共同開発中で、EV 化するニーズに適応してい 化する。今後ユーザーに評 価を随時行っている。既存 価をさらに進化させ、脱炭 素化などをテーマに新た な価値を創造していきたい」

——足元の状況を。

「前下期から徐々に建 機・産機向けが回復して おり、前年と比べて受注 の伸びが期待できそう。

の下、必要な設備投資は 進められている」

「海外事業は補修・メン レンドとは。

「当社が以前から取り 組んでいる省エネ設備の 製造の延長線だと考え ている。直近では21年5 月にNEDO事業『アン

足元でもユーザーは『ウ テナンス案件が主体で、 イスコロナでもやるべき 前期はほとんどの海外子 社は、国内需要の縮小に 伴い製鉄所の選択と集中 投資はする』という認識 会社で黒字を確保した。

「国内高炉メーカー各 社は、国内需要の縮小に 伴い製鉄所の選択と集中

月にNEDO事業『アン

足していく」